# 宇宿商店街

(宇宿商店街振興組合)

鹿児島県鹿児島市

インバウンド

地域課題対応

告手・女性

生産性向上



# 「鹿児島で住みたい街 No.1 になる」をスローガンに、PDCA サイクルに基づいた少子高齢化対策など 5 つの柱で商店街に活気を!

#### 基本データ

所 在 地 鹿児島県鹿児島市宇宿

人 口 約60万人 (鹿児島市)

電話/FAX 099-257-9690 / 099-284-1126

U R L http://www.usuki.or.jp/

会 員 数 33名

店舗数 33店舗(小売業6店、飲食業5店、サー

ビス業3店、金融業5店、不動産業1店、

医療サービス業 4 店、その他 9 店)

商店街の類型 地域型商店街

主な客層 高齢者、主婦/60歳代、30歳代

#### 商店街概要

宇宿商店街は、鹿児島市の南部地区に位置する商店街の活性化を図る目的で、同地区の任意の3通り会の構成員により平成4年12月に設立した。近隣の工業団地への大型量販店の進出が本格化し、この10年間で商圏環境が大きく様変わりするなど外部環境の変化はあったが、設立以来、地域密着型の安心安全で環境に優しい街づくりへの取組を積極的に実施することで、地域活性化に取り組んできた。

商店街の地区内には JR 宇宿駅と市電脇田駅の2つの駅があり、 来街者は自動車を持たない60歳以上の高齢者が多くを占めている。 近年では、子育て世代である30歳代や小中学生も増加傾向に あり、PTAや地区町内会と連携して子育て支援事業なども実施し ている。

## 取組の背景

## 環境の変化に対応する「持続可能な商店街」を模索

宇宿商店街を取り巻く環境は、相次ぐ大型量販店の進出などにより、厳しい状況が続いている。

商店街ではイベント開催などを通じて商店街の活性化に取り組んできたが、少子高齢化、後継者不足、子育て支援など、商店街が抱える課題はなお山積しており、多くの事業を実施してもその運営管理や効果測定の手法が確立されておらず、事業改善にも結びついていない状態だった。

そこで、適切な事業の運営管理・効果測定を行うために、来街者に「商店街に期待すること」についてアンケートや聞き取り調査を行い、役員会や青年部において「持続可能な商店街とは何か」といった観点から検討を重ね、外部環境の変化も含めた商店街の将来像から今後の事業の在り方やその効果測定の指標を導き出すこととした。

#### 取組の内容

#### 「鹿児島で住みたい街 No.1」を目指し、5 つの戦略を

商店街の将来像を明確化するためにはポイントとなるスローガンが必要であると考え、役員で検討した結果、「鹿児島で住みたい街 No.1 になる」というスローガンを掲げることに決定。

次に、商店街の取組をより効果的なものにするために、生産管理や品質管理手法として用いられる

PDCA サイクルを活用して「見える化」すること が必要だと考えた。

商店街の将来像から、その戦略目標(Plan)として、①高齢者の見守りのまちづくり、②子育て支援・街育のまちづくり、③安心・安全のまちづくり、④エコ環境・環境美化のまちづくり、⑤交流・参加・協働のまちづくりの5つを事業の柱として立案。

これらの戦略目標に対し、まちの駅の設置や「宇宿タウンガイド」の発刊、小学生大声レスキューコンテストの開催、エコステーションの設置、多世代が参加できるイベントの開催など、全23事業を実施(Do)した。

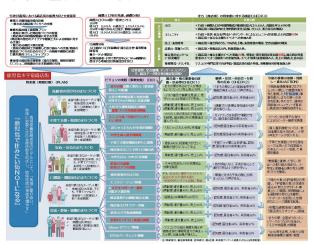
それらの各事業について、組合員・地域・行政などの視点からヒアリング・アンケート・統計データ分析などの結果と照らし合わせることによって、成果を分析し(Check)、分析結果をもとに今後の事業改善や新たな取組へと結びつけることとした(Action)。

上記を繰り返すことにより、商店街事業の新陳代謝が図られ、効果が高い事業はさらに効果を高めるため新たな取組へと進化させ、効果が低い事業は改善や廃止などが検討できるようになった。

また、商店街が掲げるスローガンに対し、各事業がどのような戦略目標のもと実施されているのか、どの事業の効果がより大きく出ているのかなどが一目でわかる PDCA サイクル表を組合員をはじめ地域や行政などとも共有することによって、それぞれが同じベク

トルで事業を行うことができる強固な組織を作りあげている。

また、ヒアリングやアンケートを行うことで、地域住民などからも新しいイベントなどのアイデアが出されるなど、新たな取組へ結びつくといったメリットも生まれている。



PDCA サイクル表

#### 取組の成果

# PDCA サイクルの活用で新たな取組へ進化

この取組の結果、地域や組合員からの協力も得られ、各イベントも多くの集客につながった。

特に戦略目標(Plan)の一つである「高齢者の見守りのまちづくり」としては、高齢者向けの健康づくり体操(Do)が好評を得ているとともに、事業実施時は商店街の通行量が60%アップし、参加店の努力もあって売上が最高30%アップしている店舗もあることがわかった(Check)。

これを受け、鹿屋体育大学や鹿児島国際大学、鹿児島大学医学部と協働で「高齢者健康増進プログラム 貯筋力アップで健康づくり(貯筋運動)」という地域を超えた新たな事業へと進化させた(Action)。





貯筋運動

高齢者が運動して貯まったポイントを商品券に交換し、地域の飲食店や小売店で利用することで、各店舗の売上増につながるなど、商店街の活性化にも 結びついている。

さらに、この取組により若者が商店街活動に積極 的になり、新たに青年部が結成されるなど、商店街 の後継者育成に対する機運も高まってきている。

#### 実施体制

毎月1回以上実施される役員会や理事会のほか、 青年部や事業実行委員会などで運営体制を整えている。「灯りページェント」「小学生大声レスキューコンテスト」「中学生商人選手権」などにおいては、 地元の保育園、幼稚園、小学校、中学校などとの連携体制を整えており、地域の子どもたちの情操教育にも結びついている。また、前述の鹿屋体育大学などの大学との連携や、安心安全なまちづくりの一環で警察署などとも連携を図っている。

他にも「鹿児島県商店街グルメグランプリ (Show-1)」の企画・主催や、「全国まちの駅連絡協議会」、「全国商店街防災ネットワーク」への加盟を通じて、県内・全国の商店街と連携し、商店街活性化に努めている。また、JR 宇宿駅や市電脇田駅、バス会社などの公共交通機関と連携し、交通至便性を確保している。





小学生大声レスキューコンテスト

地域防犯防災イベント

#### キーパーソンからのコメント



宇宿商店街振興組合 理事長 河井 達志

# PDCA サイクル表で情報共有・事業の見直し

地方の小売商業を取り巻く環境が厳しい中において、年齢層に関係なく、地域住民が商店街に集まって気軽に会話し、笑顔でコミュニケーションをとれる地域コミュニティの形成が商店街の活性化のキーポイントになるのではないかと考えています。

また、組合員、地域、行政などと連携しながら、内容と成果が伴う事業をしたいと考えたとき、PDCAサイクル表は情報共有や事業の見直しを行う上でとても便利なツールだと思います。

#### 「宇宿商店街 2050 年構想」の策定へ

今後ますます増加する高齢者が安心し

て宇宿に住めるように、平成 29 年度には PDCA サイクル表に基づいた「宇宿商店街 2050 年構想」の策定に向けて取組を開始する予定です。

高齢者福祉においては、商店街における CCRC (Continuing Care Retirement Community) という、シニアコミュニティの形成などにも取り組みたいと考えています。

これからは、青年部など次代を担う若い世代の意見も取り入れながら見直しを重ね、環境の変化に対応し、持続可能な商店街へとさらなる進化を遂げていけるよう取り組んでいきたい所存です。